

これからの学校教育を創っていく若い力の先生たち。
今年度も、多くの先生が、新たに市川市の学校に配属になりました。
今、千葉県では盛岡や名古屋など、県外でも教員採用試験を行い、よりよい教育、よりよい未来のために子供たちを支える有望な若手教員を集めています。普段は知ることのできないフレッシュな先生の素顔をご紹介します。どうぞ、身近に感じていただければと思います。
今回は市川市立平田小学校に今年度新規採用教職員として配属された河合燿平先生にインタビューしました。

今年度1年目の先生に話を聞きました



— ご出身はどちらですか？
千葉市花見川区です。小学校から高校までは千葉市で過ごしました。大学は1年勉強をして、青森の大学に進学しました。今は一人暮らしをしています。

— もともと千葉県の方なのですね。配属されるまでに、市川市にはご縁があったのですか？
市川市にはほとんど縁がありませんでした。配属が市川市の学校と決まって知らない土地ということでの不安もありましたが、市川がどんなところなのか、わくわく感もありました。



— 新しい場所というのは、不安も期待もありますよね。一人暮らしとのことですが、先生のリフレッシュ法はありますか？
今は映画とアニメを観ることです。映画は、マーベル作品をよく観ます。

— アニメを観るとおっしゃっていましたが、どんなアニメを観るのですか？
「鬼滅の刃」や「ポケモン」は観ますが、最近では「僕のヒーローアカデミア」という作品がお気に入りです。学級の子供たちから紹介された作品で、子供たちとのコミュニケーションのために観ていたものですが、今ではハマってしまっています。

— 趣味と実益を兼ねた感じですね。他にリフレッシュ法はありますか？
買い物と筋トレ…ですかね。採用される前は、よく体を鍛えていましたが、今は…なかなかできていません。買い物は、100円均一のお店に行って、学校で使えるものを探しています。

— 最近、買った中で「これ！」というものはありますか？
「木の人形」です。初任者指導の先生が「人形」を使って子供たちを注目させるという方法を教えてくださいました。初任者指導の先生はビニール製のものでしたが、私は関節も動かせる木の人形にしました。その人形は、体育のときの体の動きの説明にも使っています。



〈河合燿平先生のプロフィール〉
千葉県出身の24歳
小学校時代から野球を続け、高校時代まで、野球漬けの毎日を経験。大学は、千葉を離れ青森の大学へ進学。趣味は、映画鑑賞と筋トレ。

— では、学校でのことについてお聞かせください。担当学年と業務(校務分掌)を教えてください。
3年生の担任で、飼育と拾得物の仕事をしています。学校にはウサギもいます。生き物好きなので、この分掌でよかったです。

— 生き物が好きなのですね。生き物好きな子供も多いでしょう。ちなみに、生き物好きの先生自身を動物に例えると、何の動物になりますか？

「ゾウ」です。ゾウは協調性があって、どっしりと構えている動物だと思っています。協調性やどっしりと構えるということ大切にしているので、その部分が重なるころだと思います。子供たちの前で自分が焦ってしまうと、子供たちも焦ってしまいますので。また、子供たちには「失敗しても構わない」という姿勢も見せています。

— いつも子供のことを考えていることがうかがえますが、そもそも先生を目指したきっかけは何だったのですか？
小学校3・4年生のときの担任の先生が、何事にも全力で、一生懸命でした。その姿を見て、「カッコいいな」という憧れを持ったのがきっかけです。

— いつも一生懸命に仕事をされていると思いますが、今、困っていることはありますか？
何がわからないかがわからないことがあることです。社会人になったり、教師になったばかりだったり、学ぶことがたくさんあり、そう感じるのかもしれませんが、でも、周りの先生方がしっかりとフォローしてくれるので、とても頼もしく思っています。

— 採用前と今とで気持ちの変化がありますか？
初めは、決められた学習を教師側が完璧にこなそうという思いが強かったように感じます。今は、学級の子供たちがたくさん発言をするのでその発言や意見で授業が成り立っていると思っています。授業は子供たちと作るもの。子供たちに感謝です。

— これから出会う子供たちに、どんな風に育ってほしいですか？
学校行事や学級の活動でみんなが協力し、何事にも全力で取り組める人になってほしいです。そして、自分の意見を言える人になってほしいです。



【教育センター】

企画展 「らくがく縄文館-縄文土器のマナビを楽しむ-」の開催

市川歴史博物館では、令和3年7月24日(土)から9月12日(日)まで、公益財団法人千葉県教育振興財団主催の企画展を開催します。テーマは、研究者や芸術家だけでなく、一般の人々を魅了し続ける「縄文土器」です。縄文土器は、地域性・文化・製作方法に関するものから、芸術的観点から見た造形美に至るまで、多岐にわたって研究されています。企画展では、県内各地から出土した縄文土器の中から、研究の一端がわかる重要な資料を選び、楽しく縄文土器を学ぶことができるように、写真パネルなどを用いて、わかりやすく解説します。

【後援】千葉県教育委員会
市川市教育委員会ほか
【入館料】無料
【問い合わせ】千葉県教育振興財団
文化財センター
☎043
(424)4850
【考古博物館】



堀之内貝塚出土の縄文土器